



学校だより

令和6年1月31日
第10号 江戸川区立瑞江小学校

気候変動と教育活動

副校長 小出 紀幸

1月28日から30日にかけて、5年生はウィンタースクールに行ってきました。今回のウィンタースクールは北陸地方の地震も心配されましたが、子どもたちの安全を第一に考え、現地と連絡をとり万全の備えをして2泊3日の宿泊行事を実施しました。

地震が心配される一方で今年は雪不足も心配されました。1月初旬ごろまでは暖冬で新潟県のスキー場も雪が少ないという声が聞こえていました。けれども1月下旬にまとまった降雪があったことでウィンタースクールの時には問題なくスキーが楽しめたようです。

ウィンタースクール実施など、江戸川区は冬のスポーツに力を入れています。2月8日には4年生がスケート教室に行きます。会場の「江戸川区スポーツランド」は冬季になるとスケートリンクが作られますが、これは東京都内唯一の公営スケートリンクです。今シーズンも10月1日のオープンに向けて9月中に氷をはる作業が行われましたが、残暑の影響で施設内の温度が高く、なかなか氷がはらず大変だったことがNHKのニュースでも報じられていました。

冬の気温も上がっているので今後はスキーやスケートもこれまでと同様には楽しめなくなっていくかもしれません。体育、理科、学校行事などにおいて温暖化は学校の教育活動にもいろいろな影響をもたらしています。

校庭での体育の授業は熱中症警戒アラートが発出されれば制限や中止になります。近年は5月くらいから警戒を要するので、運動会の実施や練習も様々な配慮が必要となりました。種目数を減らして練習の負担を軽減したり、当日の時間も短縮し半日で終わらせたりなどの対応があります。児童席に日よけのテントを設ける光景も見られるようになりましたが、数多くのテントを立てる大掛かりな作業は保護者や地域の方の協力があってようやくできる取組です。

暑いならばプールで水泳をすれば、となりますが、水泳も気温とともに水温が高すぎて実施できないことがあります。夏の陽射しで温められた屋外プールの水は36度以上に達する日もあり、ぬるいお風呂で泳ぐようなこととなります。何よりプールサイドの床が熱すぎて常に水をまいて冷やさなければ裸足で歩けません。

理科や生活科では植物を観察したり育てたりしますが、植物の生育が指導予定時期より早くて観察の機会を逃しそうになったり、花や作物が順調に育たなかったりということもあります。以前はちょうど入学式頃に桜が満開だったのが、最近では卒業式頃に満開となって入学式にはほとんど散っている年もありました。

子どもたちが大人になって生活していく頃には気候もますます変わり、学校の教育活動もだいぶ変わっているかもしれません。気候変動はこれからの時代を生きる子どもたちにとっても重要な問題です。瑞江小でも学校生活や各教科での学習の中で「SDGs（持続可能な開発目標）」の17のゴールを意識した教育をして現状の理解と行動の啓発を進めています。気候変動への対応も17のゴールの中の1つに位置付けられています。

また、江戸川区の学校給食では「みんなの給食～給食からSDGsを考える～」を実施して子どもたちや保護者・地域の方がSDGsを考える機会を作っています。瑞江小では12月1日の給食運営委員会で生ごみを減らす調理の工夫をした給食を試食していただきました。

将来の世界を生きる子どもたちにできるだけよい環境や気候を残せるように、日々の生活や教育活動の中で持続可能な社会の実現のために考えたり、話し合ったり、行動したりしていきたいです。ご家庭でも環境問題のことや温暖化のことなど、時々話題にしてお子さんとともに考えていただけたらと思います。